

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                           |       |       |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------|-------|
| クラス番号          | 614                                                                                                                                                                                                                                                                       | 担当教員名 | 荒井 和樹 |
| テーマ            | 援助機関から遠ざかる親子への多様なアウトリーチ実践; 支援を前提としないアプローチ                                                                                                                                                                                                                                 |       |       |
| 著書・論文<br>研究課題等 | <p>論文「若年被害女性等支援モデル事業におけるアウトリーチの方法」『日本の科学者』日本の科学者会議</p> <p>「子ども貧困対策事業におけるアウトリーチ普及における課題と展望」『福祉研究』学内学会</p> <p>「勧誘行為の実態と成人若年層の犯罪予防に向けたアウトリーチの可能性」『子どもと福祉』明石書店</p> <p>講演「貧困ポルノとアウトリーチのリスク; なぜ若者は遠ざかるのか」(東御市教育委員会)</p> <p>学会報告「サイバー空間を起因とする犯罪抑止に向けたアウトリーチ支援の一考察」(日本司法福祉学会)</p> |       |       |

## ゼミナール概要

キーワード: アウトリーチ、性産業、貧困ポルノ、情緒的価値、ソーシャルアクション、NPO

### 目的・内容

わたしは社会的養護とアウトリーチ現場での経験から、以下の点に課題意識を感じています。

- ・救済的、保護的な支援観
- ・社会的インパクトやコストが重視される福祉実践
- ・「貧困ポルノ(貧困を見世物にする行為)」が生み出される社会構造

支援に潜む攻撃性や侵襲性は子ども・若者を遠ざけることがあります。本ゼミでは、支援対象として「ひきこもり」、「障害」、「社会的養護」、「ひとり親」など、既に定義づけされている課題にとらわれず、広く子ども・若者と接点をもつため、現場に足を運び、援助機関を利用しない、支援を受けようとする子ども・若者のニーズに向き合います。犯罪抑止、子ども若者の福祉を目的として、対社会、対外的な発信を通してソーシャルアクションを実践します。

### 授業計画

前期: 上野千鶴子(東京大学名誉教授)著『情報生産者になる』筑摩書房をもとにアウトリーチ実践を検討します。

- 実践① 実践者以上に「記者」としてのフィールドワーク(繁華街・SNS)
- 実践② 情緒的価値を創り出す、SNS 運用によるマーケティング・ブランディング
- 実践③ 自主講座の開講、ネットワークづくり、発信

後期: 実践を深める(協調性やコミュニケーションスキルが求められます)

- 実践④ グループごとに分かれて、再度フィールドワークを実施
  - 実践⑤ フィールドワーク先、Twitter 等、SNS 運用における成果報告  
(冬休み)2月: 関西でのフィールドワーク(ゼミ合宿)・4年次には卒業論文指導を行います。
- ※ 適宜、他分野との合同ゼミを開催します。フィールドワーク先は名古屋市内で検討します。

このゼミを希望する学生はエントリーシートに、下記事項を必ず記載してください。

- ① 子ども・若者分野に関心を持っている社会課題、テーマ。また、関心を持った理由について
- ② ゼミの志望理由

### 担当教員からのメッセージ



児童養護施設職員を経て、全国こども福祉センターを設立。同法人理事長、給付型奨学金ソーシャルワーカーを務めながら、現在も子ども・若者を対象としたアウトリーチやデタッチド・ワークを実践しています。

**特定の地域や知多半島を舞台とせず、広域的、「社会」にアプローチする方法を実践的に学びます。**ゼミ活動への優先順位を高く持ち、自己管理・健康管理に努め、出欠・時間・提出物等を遵守してください。意欲的に研修やボランティア等の参加できる学生を歓迎します。